

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2016年12月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第580号

私たちは、今クリスマスを迎え待ち望んでいる。世界がどれほど分断の危機に瀕し、怒りとも憎しみに溢れ、いよいよとも、主の御降誕の日はいよいよ、闇夜の後に、誰もが必ず朝を迎えるように。

私にとつての「2016年三大ニュース」に触れつつ、今年を振り返ってみよう。

第一は、4月の熊本地震。第二は、6月のEU離脱。第三は、11月の米大統領選である。

第一に熊本地震。地震発生直後から、全国各地のYMCAは熊本YMCAを現地支援本部として、全国協力による支援に尽力している。活動の様子は、「はなしあい」9月号に、支援報告会レポートの形で共有させて頂いた。熊本YMCAが運営する避難所2か所は10月末に閉所して現在は仮設住宅の支援にシフトし、阿蘇YMCAボランティアアセンタ―は今も地域の被災者支援を続けている。震災はいつしか「過去」になっていく。つい先日、福島沖の震度5弱の地震と津波によって、東日本大震災の被災地、そしてフクシマは人々の記憶に蘇った。しかしまたその記憶は忘れ去られ、被災地は取り残されていく。熊本では震度1以上の揺れは4,080回を超えた。現在進行形である。11月初めに熊本の被災地を訪れた時、手つかずの倒壊家屋

や崩落した橋・断層が目につき刺さった。私が経験した1995年の阪神大震災(当時、神戸YMCA職員)がフラッシュバックした。

第二のEU離脱と第三の米大統領選は「まさか」の衝撃だった。2回とも、海外のニュース動向やネット情報をロンドン在住の大学生が、一刻とTime(無料通信アプリ)で報せてくれた。彼女は、昨夏に一時帰国をした時は

SEALDsの国会前行動にも参加した。「大学生」は私の娘である。世界が危うい方向へ向かおうとする時、「時代のカナリア」のように若者たちが抗い、立ち上がる。しかし、正義と公正と真実を求める若者たちの声は、否定された。極めて内向きで過激なマジョリティの声が、「勝利」した。若者の声に耳を傾けない社会は、自らの未来を危うくしていく。

あなた自身が、『変化』となるのだ

関東運営委員

大江 浩



である。トランプはプロレス戦の如く戦い、勝った」と。世界は、「ヒール」に支配され、「ヘイトクライム」が蔓延する未来を迎えるのか。Oh, My God!。私たちは、傍観してはいられない。

今この瞬間にも起きている世界各地の悲痛な現実とは「他人事化」している。貧しく弱くされた人々の命が脅かされている。国内では「相対的な貧困」が進み、貧しさは増している。私は、様々な国内外の緊急支援の現場で、また途上国の医療過疎地での保健医療の現場で、そうした「忘れ

られている切実な現実」に遭遇した。

しかし、それでもなお、私たちはクリスマスを迎える。排除され、虐げられた人々と共に生きた主イエスを、私たちは知っている。日々の苦難に耐えつつ懸命に支えあつて生きる人々、人々に寄り添い、名も知られず献身的に共に生きようとする人々を、知っている。クリスマスが、分かち合う平和と和解の時であることを示す世界各地で見過ごされている事実を知っている。

私は、釜石の避難所で見えた光景が忘れられない。パン2枚を配られたお年寄りの女性が「私はパン1枚、いいから」と言つて、隣の小学生の女兒にそのパン1枚を渡した。女兒は幼い弟2人と3人で、1枚のパンを分かち合った。私はその女兒に教えられた。「分かち合いから、平和は生まれる。奪い合いから戦争が生み出される」と。私たちは天を仰ぐばかりではなく、日々のささやかな出来事から微かな希望を見出し、平和を作りだしていかなければならない。私たちが夢見る世界の変化へ、と歩みだしていかなければならない。

Be the change you want to see in the world. (あなたが見たいと思う世界の変化に、あなた自身がなるのだ)

— マハトマ・ガンジー (日本YMCA同盟)

関東活動センター

●共催プログラム

〈NCC在日外国人の人権委員会公開セミナー〉

「共に生きるためにわたしたちにできること——ヘイトスピーチ解消法成立後に残された課題——」

講師：弁護士 師岡 康子さん

2016年11月18日(金)

会場：日本キリスト教会館6階
主催 日本キリスト教協議会(NCC) 在日外国人の人権委員会

今回の公開セミナーはNCC(日本キリスト教協議会)在日外国人の人権委員会主催・日本クリスチャンアカデミー関東活動センター共催として行われた。

師岡氏の著書「ヘイトスピーチとは何か」(岩波新書二〇一三)によれば、ヘイトクライム・ヘイトスピーチとは、人種・民族・性などの社会的に弱い立場に置かれている少数者(マイノリティ)に対する差別に基づく攻撃を指す。(したがって社会的に弱い立場におかれた少数者ではない存在に対する一般の嫌悪や否定的言説は「ヘイトスピーチ」とは分類されない。)日本では二〇〇九

年の京都朝鮮学校に対する威力業務妨害事件を皮切りに、二〇一三年には東京・新大久保や大阪・鶴橋で人種差別的扇動が繰り返されるようになった。NCCおよびNCC在日外国人の人権委員会ではこうした「ヘイトスピーチ」に対して、二〇一三年七月、二〇一四年七月に抗議声明を発表した(Heilig, nccj.org)。また二〇一五年

には在日大韓基督教会の呼びかけによって、一九九四年以来二十一年ぶり第三回となる「マイノリティ問題と宣教」国際会議が東京・在日本韓国YMCAを会場に開かれ、国内外のキリスト教会が連帯してヘイトスピーチに取り組む

ための「マイノリティ宣教センター」設置と、国内法整備を求めることを含めた声明が発表された(<http://kccj.jp/archives/30981>)。またこの間に外国人法連絡会をはじめとする様々な市民団体からのヘイトスピーチ規制法整備を求める声が高まり、二〇一六年五月、日本における最初の人種差別反対法である「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」(通称「ヘイト・スピーチ解消法」)が成立した。この法律は日本におけるはじめての反人種差別理念法となった

が、差別的言動を明確に禁止するには至らず、多くの課題を今後に残すこととなった。こうした流れの中、今回のヘイトスピーチ解消法成立に向けて尽力された師岡氏を講師としてお迎えし、この解消法の意義と残された課題について伺うこととなった。

講演ではまず、過去の歴史からヘイトスピーチの害悪とは、マイノリティへの差別・暴力をはびこらせ、平等に関する言論を委縮させ、民主主義を破壊し、虐殺・戦争へ導

くものであることが確認された。これらのことを防ぐため、国際人権基準における法制度としては①法制度設計の前提となる差別の被害者グループの認識及び実態調査、②国が行ってきた差別を生じさせ又は永続化させる法制度の洗い直し、③平等な人権を保障する法制度、④人種差別禁止法、⑤ヘイトクライム及びヘイトスピーチの処罰、⑥人種差別撤廃教育、⑦被害者の保護と救済、⑧国内人権機関、⑨個人通報制度などが最低限必要とされているが、日本は一九九五年の人種差別撤廃条約加入後も取組みが致命的に遅れており、国連の全ての人権諸条約監視機関から度重なる是正勧告が繰り返されていることが述べられた。そして今回のヘイト・スピーチ解消法の成立までの経緯を振り返り、その意義と効果と共に、残された問題点としての明確な禁止条項が無いこと、適法居住要件の見直しが必要であることが触れられた。また日本の法務省は二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックに向けて人権状況の向上を図る「新たな人権擁護施策の

推進」という方針を二〇一六年度より打ち出しており、これを実態として意味あるものとするのが問われていること、また自治労による条例要綱試案「ヘイトスピーチ解消法施行を受けての地方公共団体における条例の制定に向けて」(自治研中央推進委員会)が地域社会でこの法を生かすための一つの具体的な可能性を示すものとして紹介された。

講演に引き続き、在日コリアン三世で日本キリスト教団信徒の金宣希氏からの応答がなされた。在日コリアンは現在では多様な背景を持つようになってきているが、今なお社会的少数者として差別的現実

に晒されていることを改めて実感したこと、解消法成立後も差別的なデモは続いており、差別的発言を繰り返す政治家が容認されてしまっている現状では、個々のコミュニケーションが各々の価値観を超えて他のコミュニケーションと繋がりが協力することが必要ではないか、キリスト教会もまた他のコミュニケーションと繋がりが具体的に行動することが必要ではないかという問いかけがなされ

た。講演に引き続き、在日コリアン三世で日本キリスト教団信徒の金宣希氏からの応答がなされた。在日コリアンは現在では多様な背景を持つようになってきているが、今なお社会的少数者として差別的現実に晒されていることを改めて実感したこと、解消法成立後も差別的なデモは続いており、差別的発言を繰り返す政治家が容認されてしまっている現状では、個々のコミュニケーションが各々の価値観を超えて他のコミュニケーションと繋がりが協力することが必要ではないか、キリスト教会もまた他のコミュニケーションと繋がりが具体的に行動することが必要ではないかという問いかけがなされ

た。講演に引き続き、在日コリアン三世で日本キリスト教団信徒の金宣希氏からの応答がなされた。在日コリアンは現在では多様な背景を持つようになってきているが、今なお社会的少数者として差別的現実に晒されていることを改めて実感したこと、解消法成立後も差別的なデモは続いており、差別的発言を繰り返す政治家が容認されてしまっている現状では、個々のコミュニケーションが各々の価値観を超えて他のコミュニケーションと繋がりが協力することが必要ではないか、キリスト教会もまた他のコミュニケーションと繋がりが具体的に行動することが必要ではないかという問いかけがなされ



安田さんがヘイトスピーチを取材するようになったのは、「外国人実習生」の制度の下、当時時給200円の低賃金で使用されていた外国人労働者との出会いだという。その「使用者」はみな世間一般では『いい人』と捉えられていた。続いて、ヘイトスピーチの映像を見た。「人を壊し、地域を壊し、社会を壊す」へ

●2016年度「開発教育セミナー」第4回
 「ヘイトスピーチ・わたし・社会」
 講師 ジャーナリスト 安田 浩一さん
 2016年10月15日(土)〜16日(日)

関西セミナーハウス活動センター
 た。
 なお、現在「マイノリティ宣教センター」の発足に向けて一人でも多くの方からの祈りと支援が寄せられることを願ってやまない。
 (報告・李明生)

イトスピーチは、単なる乱暴な言葉ではなく、社会的な力関係で対等な関係が存在しない相手に対して、自分の努力では乗り越えられない属性を差別・攻撃することだということも確認された。
 次に、その背景について考えた。安田さんが一貫して指摘するのは、特定の人が差別者になるわけではなく、私たちの社会が差別を温存してきたということだ。特定の民族に限らず、社会に守られていないものがパッシングの対象となる「見上げる差別」という構図がある。
 2日目は、「ともに生きる」について考えた。アジアの労働力によって「わたし」が生かされていることを自覚し、多文化共生をどうめざすか。「外国人にとつて住みよい社会は、日本人にとつても住みよい社会」である。安田さんのお話の一つ一つに心を大きく揺さぶられ、「教育は理解を深める入り口として特に重要」の言葉に勇気づけられた。

●2016年度 修学院フォーラム「社会」第2回
 「宗教と戦争を考える〈2〉」
 新約聖書における暴力からの脱却について
 関西学院大学神学部教授 浅野 淳博さん
 2016年11月12日(土)



浅野氏の講演は、パウロの回心を巡って、パウロが、マカバイ記に見られるような殉教の思想のゆえに当初は熱心にユダヤ教に帰依し、そのためキリスト教迫害を実施したのだが、ステファノ殺害に与することでのような宗教的熱心さのもつ暴力性に気づき、キリストとの出会いを通して律法の行いではなく、信

仰によつて義とされる経験をすることでそのような暴力性から脱却したというものであった。殉教者という被害者が同時にその熱心さのゆえに加害者にもなる可能性に気づいたことで回心体験に至ったという。キリストの十字架はまさに殉教者の論理からするとヒーローならざる死であるが、その死のなかに殉教の論理のもつ狭隘性、暴力性からの脱却が観取されたのではないかとする。浅野氏の講演はとても刺激的なものであり、パウロの回心が宗

教と暴力の問題の本質を突くものとして解釈されたのであった。
 質疑とはなしあいの時間では、参加者すべてより発言があつた。ステファノの殺害に与したことによるパウロの心的外傷の問題、永遠の生命と殉教思想の関連について、さらに、パウロは宗教のもつ加害性に気づいたとしても、その後キリスト教はどうなのか、といった質問が出された。今回はパウロの個人的経験にもとづく神学思想が取り上げられたが、宗教的な暴力性からの脱却という神学がその後のキリスト教の歴史のなかで十分に咀嚼されることなく、キリスト教の暴力性が展開したのではないのか、という問いは今後のプログラムの展開の方向性を示すものと思われた。

主のご降誕を
 お祝い申し上げます。

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**聖書講座 2016「新しい聖書の学び」**

「いのちの糧の分かち合い」(全 9 回)

講師：山口 里子さん (日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：2016年4月～2017年1月(8月除く)第2火曜18:30～20:00
⑨2017年1月10日

会場：早稲田奉仕園スコットホール
参加費：1,200 円/学生 500 円

テキスト：『いのちの糧の分かち合い—いま、教会の原点から学ぶ—』新教出版社

共催：早稲田奉仕園

■**2016 関東フォーラム 宗教対話**

「礼拝のためのボイストレーニング」(全 4 回)

講師：友野 富美子さん(元声優、高知放送「キリストへの時間」パーソナリティ 日本キリスト教団八王子栄光教会担任教師)

日時：①12月6日②2017年1月10日
③2017年2月14日④2017年3月7日
火曜 18:00～20:00

会場：日本キリスト教会館 6 階
参加費：1,000 円

■**2016 関東フォーラム 今日的課題**

「敗戦後日本史を考える視点」

講師：佐野 通夫さん (こども教育宝仙大学教授)

日時：2017年1月20日(金)

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 小久保 正

本部事務局
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館 6 F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

18:30～20:30

会場：日本キリスト教会館 6 階
参加費：1,000 円、学生 500 円

■**2016 関東フォーラム 宗教対話**

「分断の時代における宗教の使命 東八幡キリスト教会の歩みから」

講師：奥田 知志さん (東八幡キリスト教会牧師)

日時：2017年2月18日(土)
14:00～16:00

会場：日本キリスト教会館 6 階
参加費：1,000 円、学生 500 円

◆**関西セミナーハウス**

■**月釜 清心会**

日時：2017年2月12日(日)
9:00～15:00受付(1、8月を除く年10回)

於：関西セミナーハウス
年会費：5,000 円、臨時会費 1,000 円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2016年度修学院フォーラム「社会」**

第 4 回(第 5 回エネルギーを考える)「フクシマに聴く—私たちはいずこへ—」

講師：片岡 輝美さん (会津放射能情報センター代表)

嘉田 由紀子さん (びわこ成蹊スポーツ大学学長、前滋賀県知事)

日時：2017年1月8日(日)16:00～9日(月・祝)16:00

会場：関西セミナーハウス
参加費：14,000 円、学生 5,000 円(泊 3 食込)

第 5 回「キリスト教徒は政治問題をどう見るか—沖縄と北方領土をめぐる—」
講師：佐藤 優さん (作家・元外務省主任分析官)

日時：2017年1月28日(土)
13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス
参加費：一般 3,000 円、学生 500 円

■**2016年度修学院フォーラム「福祉」**

第 2 回「宗教から現代を考える—宗教儀礼の現代的意味—」

講師：江田 政亮さん (貴布禰 [きふね] 神社宮司)

宏林 晃信さん (浄土真宗本願寺派浄元寺住職)

福島 旭さん (日本キリスト教団牧師・関西学院中学部宗教主事)

日時：2017年2月25日(土)
13:30～17:30

会場：京都 YWCA
参加費：一般 1,500 円、学生 500 円
共催：京都 YWCA

寄付金に係る税制優遇制度について

当財団への寄付金・賛助会費は、税制上の優遇措置が受けられます。個人様は、確定申告が必要です。申告に必要な証明書は領収書と共に送りしています。ウェブサイトからも入手できます。

賛助会費・寄付金報告

2016 年 10 月 1 日～10 月 31 日
(順不同・敬称略)

◆**財団本部**

日本基督教団早稲田教会 25,000

◆**関東活動センター**

賛助会費

横野 朝彦 50,000
斎藤 宏 5,000
ランドス ハル 10,000
中富 穎隆 5,000
藤野 冷子 5,000

寄付金

小久保 正 10,000

◆**関西セミナーハウス**

寄付金

牛尾 宣夫 10,000
菊岡 克彦 10,000
武藤 高司 10,000
ワケンホールディングス株式会社 50,000
ジ・エアーズ 菅原直人 10,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費

大島 順子 5,000

柳原 清美 5,000
比嘉 美智子 5,000

寄付金

東 千代 3,000
土井 健司 1,000
杉野 榮 5,000
京都キリスト教協議会(KCC) 20,000
比嘉 美智子 3,650

もみじまつり寄付金

川北 かおり 4,000
榊園辻利 10,000
八田 尚嘉 5,000
魚木 アサ 4,000
長谷川 義紘 10,000
八田 一郎 4,000
高谷 泰市 4,000
デロイトトーマツ税理士法人
京都事務所 20,000
山添 みどり 3,000
榊橋商会京都支店 10,000
喜多村 やよい 7,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。